Japan Business Association of Houston

Gulf Stream

1880 S. Dairy Ashford Road, Suite 170 Houston, TX 77077 TEL: (281) 493-1512

Volume 52 No.2
November 2026

www.jbahouston.org

JBAH



9月12日（土）、13日（日）Japan Festival Houstonにおいて、今年度も日本商工会がワクワクキッズ縁日ブースを運営いたしました。ボランティアにご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

Thank You

ワクワクキッズ縁日ブースご紹介

チケットブース



今年はブースを２つに分けて混雑回避！お客様のチケット代を素早く計算するスペシャリストたちが集まってくれました！

ヨーヨー釣り



ヨーヨーを作るのは実は一番手間がかかっています！全員でヨーヨーを順番に作成していく様子はまるで工場のラインのような見事な連携でした。

目次

1~2 ... ジャパンフェスティバル
3 ... 理事委員記事
4 ...会社紹介・議事録
5~6 ... 日本人会
7~8 ...ショーイングジャパン
9~10...三水会クラブ報告
11~12...寒波に備えて
13~14...JMTX
15~16...テキサスメディカル
17 ...ヒューストン日記
18 ... AADA
19~20 ...ワンモアヒューストン
20 ...お助けマップ
21 ...補習校からのお知らせ
22 ... Houston Walker & 編集後記

ガラポン



今年は商品をパワーアップ！何度も挑戦して景品を狙うお客様や、一発で豪華景品を当てる幸運なお客様もいて大変盛り上がりました。

金魚すくい



金魚すくいは一番人気のブースでした！今年は他の金魚より５倍大きいモンスター金魚が登場してお客様を盛り上げてくれました！
（＊午前中にすくわれました）

輪投げ



ボランティアの皆さんの協力も頂きながら、レイアウトを大きく改良して、輪投げの魅力を伝えました。見た目は簡単ですが、なかなか入らないんです（笑）。老若男女問わず様々な方に楽しんでいただきました！

スーパーボールすくい



初挑戦のお客様が多く、すぐにポイが破れるケースが続出。そこで急遽ポイを２枚重ねに変更。お客様には大変喜んでいただけました！一方でポイの消費も想定以上に増え、2日目の午後には在庫切れに…予想を上回る人気ぶりでした。

9/12（土）、13（日）のフェスティバルに来てくださった皆様の笑顔が見れて素晴らしい機会となりました。

また、ボランティアにご協力頂いた皆様におかれましては、連日暑い中とはなりましたが、積極的に手伝ってくださり、ありがとうございました。皆様のおかげで無事に運営を終えることが出来ました。

多くのお客様に縁日ブースを通じて、日本ならではの文化を実際に体験して頂き、日本とアメリカの交流の架け橋になれたものと考えております。来年度も引続きキッズ縁日ブースを運営していくので、ご協力のほどよろしくお願いいたします！

また、今回の活動では、会社の垣根を越えて多くの方々にイベントを支えていただきました。Japan Festivalが、日本文化を地域の皆様に知っていただく機会となり、ヒューストンの日本人コミュニティや日系企業間の交流と発展につながれば、大変嬉しく思います。

ありがとうございました！

＜ジャパンフェスティバル主幹事　Daikin CTNA, Inc＞

アメリカでふと考える送金・決済サービス

今月の理事記事委員

Mizuho Bank, Ltd　佐藤 友洋

約9年ぶりにアメリカに赴任してきて、まず最初に驚いたのが、銀行間の送金が個人の携帯電話の番号を入力すればできるようになっていたことです。以前はVenmoというアプリを用いて個人間送金をしていた記憶があり、割り勘する際によく“Venmo me.（Venmoで送金して）”と言われていたのですが、そのような言葉も消えていくかもと世の流れの速さを感じる次第です。この銀行の個人間送金サービスは、皆さまご存じのとおり「Zelle」というサービスで、大手銀行が共同出資するEarly Warning Services社によって2017年6月に開始されたサービスのようです。

このような便利な個人間送金サービスが他の国々にもあるのか気になり、少し調べてみました（括弧内はサービス名）。オーストラリア（PayID）、ブラジル（Pix）、イギリス（Faster Payments）、インド（UPI）など、さまざまな国で普及しているようです。私の前任地であるシンガポールでも「PayNow」というサービスが非常に普及しており、このサービスは銀行間の個人送金に加え、ホーカーと呼ばれる屋台などでのQRコード決済にも使え、Zelle＋PayPayもしくはAlipayのようなサービスになっております。アメリカでは長年クレジットカード決済が普及しており、ジャパンフェスティバルのような催しにおいても決済できることに驚きましたが、アジアでは屋台やいわゆるパパママショップと呼ばれるような個人・家族経営店が多く、クレジットカード決済に必要な端末の用意や、クレジットカード会社に支払う加盟店手数料の負担などから、QRコード決済も広く普及している印象です。





さて、日本ではどのような個人間送金や決済サービスが普及しているかと考えたときに、一番に思いつくのは、やはりPayPayでしょうか（あくまで個人的な所感です）。日本への一時帰国の際に飲み会の精算でよく「PayPayして」と言われるのですが、利用できるPayPayのアカウントがなく、いつも現金で支払うため、友人に面倒をかけてしまっております。ここでふと思ったのですが、アメリカやシンガポールのように、日本でも電話番号で個人間送金ができないのでしょうか。AIに聞いてみます。どうやら「ことら送金」というものがあるらしい。はて？ 聞いたことがある名前だと思ったら、弊社も参画しているサービスが出てきました。私の以前の上司も開発に関与していたはずで、私が知らなかったと知ったら怒られることでしょう。ただ、皆さまもご存じでしたでしょうか？ PayPayの圧倒的な知名度と普及を見るにつけ、マーケティングの大切さを改めて考えさせられる次第です。弊社のみならず、400以上の都市銀行、地方銀行、ネット銀行、信用金庫、スマホ決済事業者などが参画しているプラットフォームですので、少しだけご紹介させていただくと、2022年10月に「ことら送金」のサービスがスタートしており、1回10万円以下の送金であれば、送金先の銀行口座の番号を知らなくても、あらかじめ銀行口座とひも付けした携帯電話番号やメールアドレスを入力し、銀行間送金ができるというサービスとなります。大変残念ながら、非居住者向けにはサービスが提供されていないため、もし日本へ本帰国されることがございましたら、このようなサービスがあることを思い出していただけたら幸いです。

【ことら送金Webサイト】

MEET OUR NEW MEMBERS!

会社紹介

Blucor

準会員　則俊 慶太さん



会社の業務内容について

BlancAIは、米国の現場職・専門職採用に特化したAI採用エージェント「Blucor（ブルーコア）」を、ニューヨークとテキサスの2拠点から提供しています。

米国の採用市場では、特に現場職や専門職の採用に2つの課題があります。1つは、製造、物流、建設、サービス業などの大量採用では、応募者が多すぎるため、採用担当者が全員に迅速に対応できないことです。Blucorは応募直後にAIが電話をかけ、資格、経験、勤務条件などを確認し、50以上の言語で選考を支援します。

もう1つは、スキルドワーカーやセールス職など、特定の地域・職種で適した候補者が集まらず、求人掲載や人材紹介会社への依頼後も採用に2カ月以上かかることです。Blucorは音声AIを活用した独自のタレントプラットフォームを持ち、登録者に30分以上のヒアリングを行っています。職歴、専門スキル、資格、希望条件、現在の求職活動状況を把握しているため、Indeedなどの一般的な求人媒体では見つけにくい人材にもアクセスし、難充足ポジションに適した候補者を迅速に紹介できます。

ヒューストン／テキサス州の印象

テキサス州は、エネルギー、製造、建設、物流など、米国の産業を支える企業が集まる地域という印象です。広大な州内では、地域や職種によって人材の需給が異なり、採用力が事業成長に直結すると感じています。JBAHを通じて日系企業の皆様から現場の課題について学び、地域の採用と事業成長に貢献できる関係を築いていきたいと考えています。

個人的な関心事（趣味等）

これまでリーダー育成事業の共同創業や上場企業の採用責任者を経験し、2023年にBlancAIを共同創業しました。現在は、採用担当者や現場で働く方々の声を直接聞き、課題をサービスへ反映することを大切にしています。さまざまな地域の企業や働く人と出会い、その土地の産業や仕事について学ぶことが、私の大きな関心事です。

令和8年度（2026-2027）10月 商工会常任委員会議事録

日　　時：2026年10月28日(水) 17:00-17:50
会　　場：United Way of Greater Houston CRC
出 席 者：48名（名誉会長、名誉会員１名、常任委員41名、正会員代理人４名　オブザーバー１名）
司　　会：佐藤　友洋　幹事

※詳細については商工会の「会員専用ページ」をご参照ください。

図書館休館のお知らせ

以下の日程で

図書館を臨時閉館 いたします

11月26日(木)~28日(土)



図書の返却は、前日までにお願いいたします。

2026年9月

ジャパンフェスティバル

長蛇の列の日本人会ブース





9月12日（土）・13日（日）のジャパンフェスティバルでは、毎年人気の日本人会恒例の大阪本場のたこ焼き、風味の良い焼き鳥、綿菓子、餡が詰まってずっしりしたあんパンを提供しました。今年は場所の移転と猛暑の影響で、売れ行きとボランティアの健康が懸念されました。日本以上の猛暑でしたが、日本人会会員でヨット部だった方が複雑なテント屋根をその場で作り上げてくれました。このおかげで、暑さをしのぐことができ、2日間を乗り切ったのでした。



今年は、用意周到に、フェスティバルの3週間前からたこ焼き研修会を3回開催し、腕を磨いてきました。前夜は総勢8名のボランティアで8キロの紅ショウガ、240束のねぎを切り、ジャパンフェスティバル開催へ向けて意気軒高に準備を進めました。タコは今までで一番大きく切られたものを準備しました。





当日、たこ焼き組は、10台の“炎のたこ焼き器”をずらりと並べ、お客様を少しでもお待たせしないよう、総動員で焼き続けました。こうしてボランティアの皆さんが一所懸命に本場のたこ焼きを焼く姿を前に、朝から長蛇の列ができていました。小麦粉からブレンドして材料を作りますので最適な調合が必要ですが、皆さんすぐに習得。タコ、ネギ、天かす、紅ショウガなどの材料補充、販売促進、集金までチームワークで対応。現場での手作りは、熱々のたこ焼きと踊るかつお節、たこ焼きソースとともに食べることができるので大人気。“今年のたこ焼きが今までで一番おいしかった”との声も聞かれました。







焼き鳥は、他の出店者が驚くほどの良い味。男性陣の素晴らしい掛け声で盛り上がると、一気に焼き鳥屋の雰囲気が漂い始めました。鉄板プレートの温度調整、湿度維持、プレートの掃除をチームワークで手際よくこなして、タレをつけて販売。両日とも早めに完売してしまいました。

あんパン・クリームパンは予想以上に苦戦。見栄えよくあんパンを展示して高校生のボランティアが販売しましたが、完売には至りませんでした。綿菓子はいつもながら子どもたちに人気で、中学生、高校生のボランティアが手際よく大きめの綿菓子を作製。来場者の子どもたちは大きくてフワフワした綿菓子にたいへん満足されていました。

日本人会では、これまで蓄積された経験からお客さんの流れを予測して、最適な方法で販売促進、支払い、商品の受け渡しをスムーズに行いました。あの暑さの中、皆さんよく頑張ってくださいました。

忙しくも、楽しく充実した今年の日本人会ブースは、お子様からご年配の方まで、準備や運営にかかわったボランティアの皆様にとっても心に残るイベントになったことと思います。ボランティアの皆さんは次の動きを読んで自発的に動かれるので非常に効率が良く、適材適所のメンバーが揃いました。皆さんのチームワークや助け合う姿勢は素晴らしく、企業が欲しがる人材がたくさんいらっしゃいました。暑さにも負けず頑張ってくださったボランティアの方々に感謝、感謝です。

初めてジャパンフェスティバルのボランティアとして参加してくださった方もたくさんいました。日本人会としての一体感が生まれ、皆で喜び、来年につなげていこうという機運が高まりました。（ヒューストン日本人会）







ボランティアの皆様の感想

先日のジャパンフェスティバルでは大変お世話になりました。終日のたこ焼き作りに奮闘し、ヒューストン駐在開始後、最も強い疲労感に襲われましたが、実に新鮮な体験であったこともあり、何とも心地よい疲労感でありました。何より地元で活躍されている方々との交流が持てたことが良かったと思います。

ジャパンフェスティバルでは、ご準備も含め、ご対応いただき、大変お疲れさまでした。私としても、楽しい時間を過ごすことができたことに、改めて御礼申し上げます。

今回初めて参加させていただき、ありがとうございました。皆さんいい人ばかりで楽しい時間を過ごさせていただきました。

2日間、暑い中、本当にお疲れ様でございました。今回初めて参加させていただきましたが、夫婦ともにとても楽しく、素敵な2日間を過ごさせていただきました。昨年はお客さんとして参加し、皆さんが楽しそうにされている姿がとても印象に残っていて、“今年はぜひ参加したい”と思っておりましたので、お声をかけていただき本当にありがとうございました。

日曜日は一日中野外で大変でしたけれど、たこ焼きをコロコロと焼きながら、自分の人生（過去、現在、これからのこと）を何度も繰り返し考え、自分と向き合うことのできた時間でした。暑さでヘトヘトになりましたが、楽しくたこ焼きを焼くことができました。

Japan Festival 2026
ショーイングジャパン

9月12日・13日に開催されたジャパンフェスティバルでは、例年より多くの生徒さんがボランティアとして活動しました。暑い中でも笑顔でお客様との交流を楽しんだ生徒さんたちの感想をご紹介します。

幅広い年代の方々と交流できたことはとても楽しかったです。自分の名前が日本語で書かれているのを見て、皆さんの表情がパッと明るくなるのを見られたのはうれしかったです。猛暑の中でのボランティアは大変でしたが、コミュニケーション能力が向上したと感じています。



（高3 川崎レネ）





今年もジャパンフェスティバルに参加できて、たくさんのお客様と世間話をしたり、皆さんのとびきりの笑顔が見られて、本当に良かったです。列が長くなって混乱することもあったけど、どれも貴重な経験で、すごく勉強になりました。

（小6 水野舞香）



ボランティアで、普段出会えないような方と会い、たくさん会話をするという得難い体験ができました。

（大1 大塚彩音）



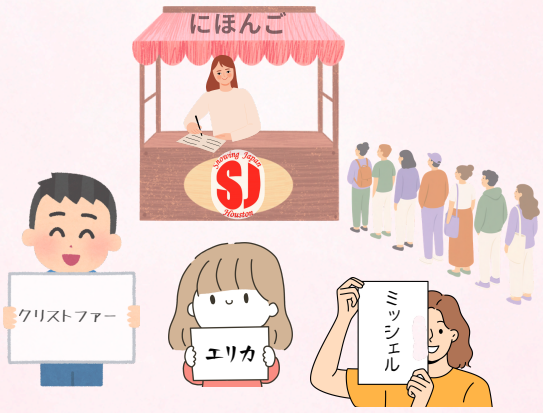
とても暑かったですが、しおり書きのボランティアがまた今年もできて楽しかったです。

（小6 大塚琴音）



最初は、めんどくさいなと思っていたのですが、始まったらお客さんと楽しく話をしたり、しおりへの名前書きも夢中になって、時間があっという間に過ぎていました。

（小6 赤池花）



英語と日本語を使って、いろいろな人と話せたのが楽しかったです。お客さんが日本の文化を大好きなのが伝わってきて、うれしかったです。



（中1 関華乃）



初めてのボランティア活動で少しドキドキしましたが、とても楽しくていい経験になりました。お客さんに栞を喜んでもらえてうれしかったです。また参加したいです。

（中1 岸川菜美）



友達とボランティア活動ができて楽しかったです。カタカナでお客さんの名前を書いて喜んでもらえて、日本語を勉強していてよかったと感じました。

（小6 福元怜可）



暑かったけれど、しおりにお名前を書いてわたすのがとても楽しかったです。



（小2 兒子夏渚子）



（中1 児嶋咲良）

2回目の参加でしたが、日本の文化に興味のある人がたくさん来てくれてうれしかったです。ボランティアを通して、自分自身も日本の文化についてより深く知る機会になりました。



（小6 兒子結衣子）

日本に興味のあるたくさんの人に会えて、とても面白かったです。休憩時間に友達とお祭りを見て回れたのも、すごく楽しかったです。ありがとうございました。

ジャパンフェスティバルでのボランティアは、ここでしかできない特別な経験でした。来場者の方々と交流し、たくさんの笑顔を見ることができて、ものすごくやりがいを感じました。皆さんも一度はここでボランティアをしてみることをおすすめします！



（大１ラズベリーソフィア）





日本文化を通して地域の方々と交流することは、生徒たちにとって貴重な経験となりました。暑い中、笑顔で頑張ってくれた生徒の皆さん、そしてご来場くださった皆さま、ありがとうございました！

Showing Japan は、ヒューストン日本商工会のご支援の元、ヒューストンの方々に日本の文化を紹介するボランティアグループで、1989年にヒューストン日本語補習校の保護者が中心となり創設されました。

それまでは現地校などから日本文化を紹介してほしいという要望があると、その学校にお子さんを通わせている保護者が学校ごとに対応していましたが、日本文化への関心が高まり多くの学校からの依頼が相次ぐ中、いくつかの現地校に通う保護者が互いに協力し、集まった日本紹介の資料などを使ってShowing Japanとして活動を始めました。その後現在までヒューストンの日本文化紹介の窓口のひとつとして活動を続けています。

現在は、茶道、書道、折り紙、浴衣の着付けなど、現地校や施設からのご依頼によって、紹介する活動をしております。

興味のある方は、お気軽にご連絡ください。

Showing Japan ホームページ・インスタグラム　★メンバーは随時、募集中です！

三水会
クラブ

Back to School 第2弾

お子さんと皆さんの心のケア



2026年9月17日（木）、三水会クラブは、テキサス州認定心理カウンセラーの小島理絵先生を講師にお迎えし、セミナー「Back to School 第2弾：お子さんと皆さんの心のケア」を開催しました。9月には、ヒューストンで新しい生活を始められたご家族や、新学期を迎えたお子さんとそのご家族も多く、そういったご家族をサポートする目的で本セミナーを開催いたしました。

異文化・異言語の環境での暮らしには、新たな発見や喜びがある一方、知らず知らずのうちにストレスや不安が蓄積していることもあります。今回のセミナーでは、子どもの心のケアに加え、親自身の心と向き合うことの大切さについて、小島先生から具体的で実践的なアドバイスをいただきました。

まずは自分自身を大切にすることから

講演で特に印象的だったのは、「まず自分に酸素マスクを」という考え方です。飛行機内で緊急事態が起きた際、まず自分が酸素マスクを装着してから周囲を助けるように、家族を支えるためには、親自身が心身の健康を保ち、余裕を持つことがいかに大切かが示されました。

そのうえで、子どもが「学校に行きたくない」と話したり、普段と違う様子を見せたりしたときには、すぐに否定したり解決策を示したりするのではなく、まずはその気持ちを受け止め、耳を傾けることが重要であり、子どもの言葉や行動の背景にある思いを理解しようとする姿勢が、安心して気持ちを話せる関係づくりにつながると説明されました。

また、日常生活で活用できる心理的なアプローチとして、子どもの気持ちを認めながら必要なルールや限界を伝える「A-C-T Limit Setting」や、自分の感情に気づき、思いやりを持って受け止める「RAIN（Radical Compassion）」なども紹介されました。

さらに、家庭や学校以外にも、スポーツや趣味などを通じて子どもが安心して過ごせる「居場所」をつくることや、スマートフォンなどのデバイスを使わず、子どもと一対一で向き合う「One-on-One Time」を設けることも提案されました。週に一度、30分程度でも、子どもが主役となって親と過ごせる時間を持つことが、親子の信頼関係を深めるきっかけになるとのことです。

なお、小島先生は、慣れない環境で生活することの難しさにも触れ、「できなくて当たり前、できたらすごい」という視点を持つことの大切さを強調されました。何もかも完璧にこなそうとせず、ときには“ま、いっか”と肩の力を抜くこと。その柔軟な気持ちが、親子双方の心を軽くしてくれるのかもしれません。

参加者からも“気持ちが軽くなった”との声

「セミナー終了後に実施したアンケートでは、参加者全員から「大変満足」または「満足」との回答をいただきました。講演内容のわかりやすさや、日常生活での活用のしやすさについても高い評価が寄せられました。

参加者からは、「子ども一人一人との時間を意識してつくっていきたい」「子どもとの1対1の時間の大切さを実感した。子どもに主導権を渡して向き合う時間を、早速実践したい」といった声が聞かれました。また、セミナーを一言で表すと“諦めることがあっても良い、頑張りすぎなくても良いと思える会だった”“気持ちが軽くなった”といった感想も寄せられました。

子育てや子どものメンタルケアに関するセミナーを今後も継続してほしいという要望もあり、参加者の関心の高さがうかがえました。今回のセミナーが、日々の子育てを振り返り、自分自身や家族との向き合い方を考える機会となったことが伝わってきます。



小島理絵先生の活動と、セラピストへの道のり

今回講師を務めてくださった小島理絵先生は、テキサス州認定心理カウンセラー（LPC）として、ヒューストンの治療施設「MendCenter」に勤務されているほか、個人でのカウンセリングや、DV被害者を支援する団体「AADA（Asians Against Domestic Abuse）」を通じて、日本語でのセラピーを提供されています。

小島先生によれば、セラピストを志すきっかけとなったのは、ご自身のお子さんが幼い頃にプレイセラピーを受けた経験だったとのことです。その際、ご自身もセラピーを経験し、前向きな変化を感じたことから、この仕事への思いを深められたそうです。結婚後は料理学校で学び、レストラン勤務や料理教室、子育てなどを経験された後、2017年に大学院で修士号を取得されました。さまざまな人生経験を経て、現在の道へと進まれました。

勤務先のMendCenterでは、重い精神疾患を抱える方々の長期的な治療に携わり、ラカン派精神分析に基づくアプローチを実践されています。また、料理好きな小島先生は、食を通じた交流も大切にされています。毎週金曜日には、患者さんと一緒にカリフォルニアロール丼や手作りスイーツなどを作る活動も行っているとのことで、食事を共にしながら過ごす時間も、人とのつながりや日々の生活を大切にする取り組みの一つとなっています。

小島先生ご自身も、頼れる親族が身近にいない海外の環境で、二人の男の子を育て上げた経験をお持ちです。その経験から、子育ての難しさや、不安を抱えたときに言葉にして誰かに伝えることの大切さを実感されてきました。プライベートでは、大人になってから始めたピアノやバレエを楽しみ、心身のリフレッシュにも努めていらっしゃいます。



▲心理カウンセラーの小島理絵先生
職場で見せる親しみやすい笑顔

専門家としての知識に加え、ご自身の経験も交えながら語られる小島先生のお話には、参加者が安心して自分自身を見つめ直せる温かさが感じられました。

人と人とのつながりを大切に

講演後の質疑応答では、参加者が日頃感じている疑問や悩みについて、理解を深める機会となりました。また、アイスクリームを囲んだ交流タイムでは、参加者同士の会話も弾み、新たなつながりが生まれました。

三水会クラブでは、今後もヒューストンで暮らす皆さまの生活に役立つ情報を提供するとともに、安心して交流できる場づくりを目指し、さまざまなセミナーやイベントを企画してまいります。今回のセミナーが、皆さまにとって、頑張りすぎず、自分自身と家族を大切にするきっかけとなれば幸いです。

連絡先：商工会事務局 info@jbahouston.org

（文責：生活・情報委員会 三水会クラブ 根本真樹子）

ボランティア大募集

商工会では、図書館、ガルフストリーム編集、お助けマップ、あそぼーかい、読み聞かせの会など、さまざまな活動を行っています。

ご都合のつくときだけの参加や単発のお手伝いも歓迎しています。

ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。



info@jbahouston.org　または図書館カウンターまで

ヒューストンの冬に備える



ハリケーンシーズンが終わると、ヒューストンは穏やかな冬を迎える事が多い一方、短期間の寒波が停電、断水、道路凍結を同時に引き起こす事があります。2021年2月には電力と水道に深刻な被害が生じ、2025年1月には周辺で2〜4インチ程度の雪が観測されました。備えるべきなのは雪そのものより、低温に伴う生活への複合的な影響です。

今冬の見通し

NOAA季節予報（図1参照）によると、今年の冬は非常に強いエルニーニョとなる確率を90%超と予測しています。エルニーニョの冬は低気圧の通り道が南寄りになり、テキサスを含む米国南部では降水量が増えやすくなると言われています。またヒューストン周辺の気温は平年並みと見込まれています。

但し、冬全体が平年並みでも、数日間の厳しい寒波は起こり得ますので、降水と強い寒気が重なれば雪や路面凍結となるため、季節予報が安心せず、短期予報を確認し、早めに準備する事が重要です。

NOAA　季節予報図

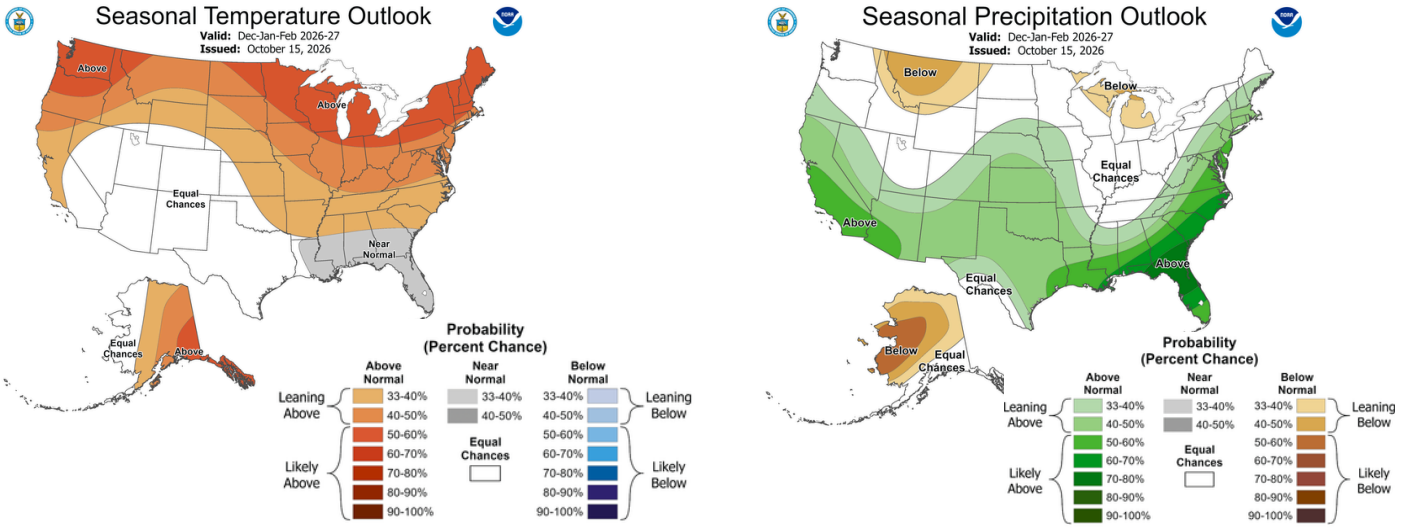


図1　2026年12月〜2027年2月の気温・降水量見通し（出典 NOAA Climate Prediction Center）

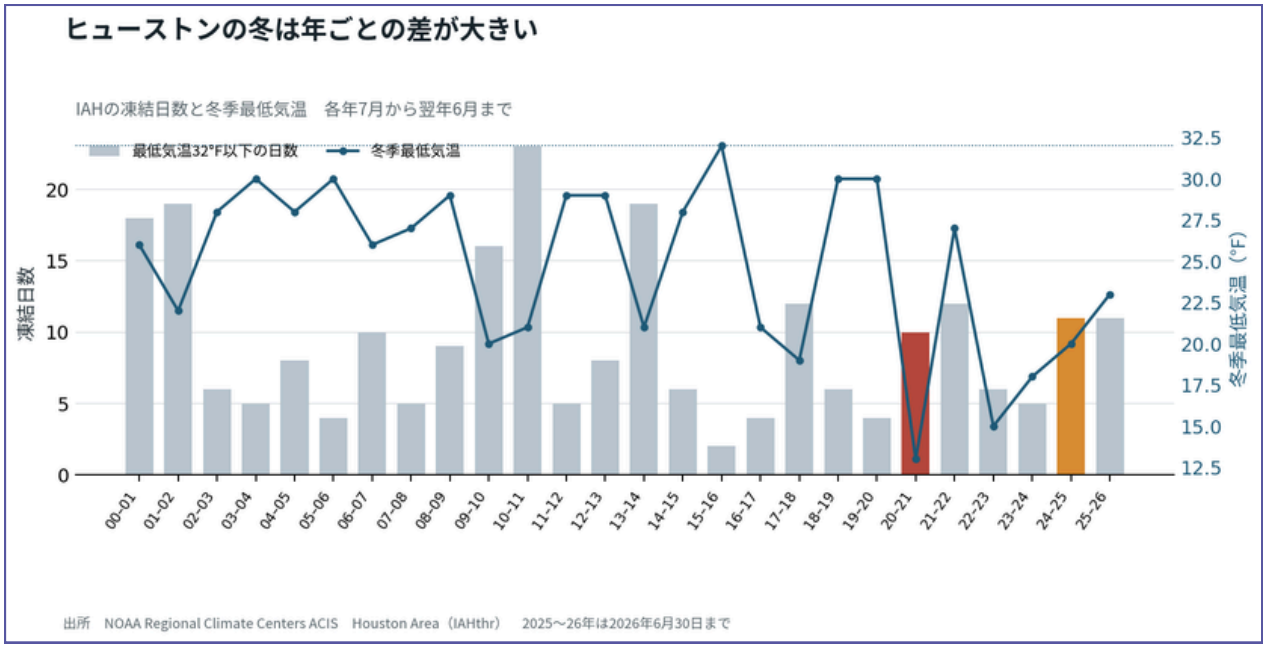
ヒューストンの冬

冬の厳しさは年によって大きく変わります（図2参照）。

2020〜21年は最低気温13°F、凍結日10日、2024〜25年は最低気温20°F、凍結日11日でした。日数だけでなく、低温の深さと継続時間、降水、停電や断水が重なるかどうかで被害が変わります。

2021年2月の寒波では、設備の凍結と電力需要の急増が重なり、テキサス州でピーク時に450万件を超える停電が発生しました。州保健当局が確認した関連死は246人で、ヒューストン周辺でも配管破裂と断水が相次ぎました。電気と水を同時に失う事態を前提に備える必要があります。

図2　IAHの冬季凍結日数と最低気温　赤は2020～21年、橙は2024～25年



寒波への備え

- ✓ 飲料水（1ガロン／日／人）、加熱不要な食品、簡易コンロ、常用薬、乳幼児・ペット用品、防寒具を数日分用意。
- ✓ 携帯電話・バッテリー等を充電し、NWS、自治体、電力・水道会社、学校からの通知を確認する。
- ✓ 屋外ホースを外し、露出配管等を保温する。水道元栓の位置と閉め方も確認する。
- ✓ 生活用水、車の燃料・EV充電を確保し、路面凍結時の運転を控える。
- ✓ 企業は安否確認、在宅勤務・休業判断、設備の停止・復旧手順を共有する。

品薄に備える



食料品・暖房用燃料を少し多めに買っておく

停電に備える



懐中電灯・防寒着・モバイルバッテリーなど用意

凍結に備える



少しずつ水を出し続けたり、庭の蛇口を布とビニールで覆う

停電時は重ね着と毛布で体温を保ち、懐中電灯を使ってろうそくは避けます。炭火グリル、屋外用ヒーター、ガスオーブンを暖房代わりに使用してはいけません。発電機を所有している場合は、必ず屋外で窓、ドア、換気口から20フィート以上離して使用します。**一酸化炭素警報器が鳴った場合や、頭痛、めまい、吐き気が出た場合は直ちに屋外へ移動して911に連絡してください。**

多くの日が穏やかだからこそ、準備は後回しになりがちです。予報が具体化する前に最低限の備蓄と設備確認を済ませておきましょう。

出典

NOAA CPC ENSO Diagnostic Discussion（2026年9月10日）・Long-Lead Seasonal Outlook（9月17日), NOAA RCC ACIS（IAH最低気温), Texas DSHS（2021年寒波関連死), FERC/NERC（2021年停電報告), CDC・Ready.gov・NWS Houston/Galveston

(安全・危機管理特命理事　國貞 直行)

皆様のご支援とともに歩んだ4年間

JMTXの活動報告とこれから

日本テキサス医学振興会代表理事
福田由梨子

日本テキサス医学振興会（Japan Medical Association in Texas、通称ジャムテックス。以下、JMTX）は、2022年末にヒューストン日本商工会（以下、商工会）の温かいご支援を受けて設立された、医療系の非営利ボランティア団体です。

JMTXのことをすでにご存じの方も、初めて名前を聞く方もいらっしゃると思います。設立から4年が経ち、活動5年目を迎えたこの機会に、これまでの歩みをご紹介するとともに、日頃から活動を支えてくださっている皆さまに感謝をお伝えしたいと思います。

JMTX設立のきっかけ

国民皆保険制度があり、比較的容易に医療機関を受診できる日本での生活に慣れた私たちにとって、アメリカの医療制度は複雑で、医療費も高額です。保険の仕組みや医療機関の選び方がわからず、受診のハードルを高く感じる方も少なくありません。

新型コロナウイルス感染症が流行した当時は、不確かな医療情報が飛び交い、慣れない土地で英語を使いながら生活する日本人の間にも、大きな不安が広がりました。



そのような中、日本人医師がウェビナーを通じて、正確な医療情報を日本語で直接伝えることで、参加者の不安が軽減され、必要な医療につながる手助けができることを、私たち自身も実感しました。

コロナ禍が落ち着き始めた頃、「感染症の流行時だけでなく、普段からアメリカの医療情報を日本語で発信できれば、もっと多くの方の役に立てるのではないか」と考えるようになりました。一方、医療従事者だけでは、広報や運営を含めた活動を長く続けることが難しいことも、これまでの経験からわかっていました。

そんな時、商工会からご支援をいただけることになり、有志でJMTXを設立することができました。

設立当初は、ボランティア団体として寄付を募りながら活動を継続できるのか、不安もありました。しかし、「まずは始めてみよう。うまくいかなければ、その時に考えればいい」という、アメリカ生活で培われた少々楽観的なチャレンジ精神に背中を押され、活動をスタートしました。

日本語で正確な医療情報を届ける

最初に取り組んだのは、アメリカの医療情報を日本語で提供するホームページの開設です。アメリカの医療制度や病気について、日本語でわかりやすく説明した情報は限られていたため、誰でも無料で閲覧できる情報発信の場をつくりました。また、一般の方向けの医療ウェビナーを年3回程度開催してきました。テーマは、アメリカでの医療機関の受診方法、さまざまな病気の予防や治療、交通事故への対応など、日常生活に役立つものを中心に選んでいます。交通事故に関するウェビナーでは400名以上の方にご参加いただきました。

開催時間に参加できない方にも情報を届けられるよう、ウェビナーで使用したスライドをホームページに掲載し、録画もYouTubeで公開しています。商工会、日本語補習校、在ヒューストン日本国総領事館など、多くの皆さまの広報協力によって、情報を必要とする方々に届けることができました。

現在までのウェビナー開催数は12回、ホームページの累計閲覧数は18万回を超えています。SNSでも継続的に情報を発信しており、少しずつ活動の輪が広がっています。

日本語で安心して相談できる医療環境づくり

JMTXでは、日本語で診療できる医療者のネットワークづくりにも力を入れてきました。現在、ヒューストンには日本語での対応が可能な家庭医療科・小児科の医師が4名おり、Urgent Care（急病診療所）で働く日本語対応可能なフィジシャンアシスタントもいます。日本語で医療相談ができる選択肢が広がってきたことを、大変うれしく思っています。



また、JMTXのホームページでは、ヒューストン近郊やオンラインで日本語対応が可能な医療関係者39名を紹介しています。医師だけでなく、さまざまな専門職の方々とのネットワークも広がりました。JMTXのメンバーである茨木医師、川口栄養士、小島理絵カウンセラーらにも、商工会主催のセミナーで講師を務めていただきました。

何かあったときに相談できる医療者がいることは、大きな安心につながります。皆さまにも、普段からかかりつけ医を持ち、年に一度の健康診断を受けていただければと思います。

スポンサー企業・団体の皆さまへのサポート

JMTXでは、活動を支えてくださるスポンサー企業・団体への感謝の気持ちを込めて、会員や社員の皆さまからの医療に関するご相談にも無料で対応しています。アメリカでどの医療機関を受診すればよいかわからない、医師から受けた説明を十分に理解できなかった、セカンドオピニオンを検討しているなど、さまざまなご相談をいただいてきました。医師と患者の診療関係に基づく診断や治療を行うものではありませんが、一般的な医療情報の提供や、適切な医療につながるためのアドバイスを行っています。

また、企業の健康教育や、テキサスメディカルセンターとの連携を検討されている企業への情報提供など、医療に関するご相談にも可能な範囲で対応しています。ご相談がありましたら、JMTXホームページのお問い合わせフォームからお気軽にご連絡ください。



日本の若手医師の育成 ― 将来への投資

JMTXでは、皆さまからいただいた寄付金の一部を、日本の若手医師の育成にも活用しています。日本には優秀で意欲的な医学生や若手医師が数多くいますが、海外の医療現場を経験し、国際的なネットワークを築く機会は必ずしも十分ではありません。そこでJMTXでは、テキサスメディカルセンターでの病院見学を希望する若手医師を対象に、書類審査と面接による選考を行い、見学機会の調整、奨学金による経済的支援、キャリア形成のサポートを行っています。

これまでに33名が病院見学に参加し、10名が奨学金を受賞しました。さらに、奨学金受賞者のうち2名が、2026年にアメリカの研修医（レジデント）として勤務を開始しました。設立当初には想像できなかった、大変うれしい成果です。

私たちは、若手医師への支援を単なる海外研修の機会提供ではなく、将来への投資だと考えています。テキサスで学んだ医師が日本に戻って医療の発展に貢献すること、そして一部の医師がアメリカで活躍し、将来、在米日本人の医療を支える存在になることを期待しています。こうした日米双方への長期的な貢献も、JMTXが目指していることの一つです。

皆さまへの感謝とこれから

2022年に小さなボランティア団体としてスタートしたJMTXも、皆さまの温かいご支援のおかげで、活動5年目を迎えることができました。設立当初は活動を継続できるか不安もありましたが、今では医療情報の発信にとどまらず、日本語で診療できる医療者のネットワークづくりや、若手医師の育成にも活動の輪が広がっています。

ここまで活動を続けることができたのは、ヒューストン日本商工会の皆さま、スポンサー企業・個人の皆さま、そして活動にご協力くださった多くの方々のおかげです。心より御礼申し上げます。

これからも、アメリカで暮らす日本人の皆さまが安心して医療を受けられる環境づくりに取り組むとともに、日米の医療をつなぎ、次世代の医療者を育てる活動を続けていきたいと考えています。皆さまとともにJMTXの活動をさらに発展させていければ幸いです。今後とも温かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

（文責：日本テキサス医学振興会代表理事／Associate Professor of Medicine, Baylor College of Medicine 福田由梨子）

連載

テキサスメディカルセンター 最前線

このページでは医療の最前線でご活躍されているメディカルセンターのドクターにリレー方式でご登場いただき、健康と医療についてお話頂きます。



今月号は林秀憲先生から消化器外科・生物統計学がご専門の奥居潤先生にバトンが移りました。

第262回

「本当に効く治療」をどうやって見つけるのか？
― 医療を変える「因果推論」という考え方 ―

医師（現MD Anderson Cancer Center研究員）　奥居潤



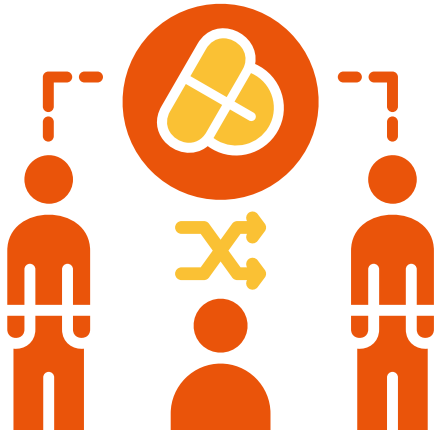
皆さま、こんにちは。慶應義塾大学医学部から来ました奥居潤と申します。私は日本では消化器外科医として食道がんや胃がんを中心とした診療に携わったのち、生物統計学・臨床疫学を専門とし、消化器がんの臨床研究に取り組んできました。約1年前から、日本学術振興会の海外特別研究員としてMD Anderson Cancer Centerに留学しています。現在は、大規模な臨床データを活用し、消化器がんの治療成績の向上につながるエビデンスを生み出すための研究に取り組んでいます。今回は、臨床データからがん治療の新たなエビデンスを生み出す面白さを少しでもお伝えできればと思います。

「効いた」と言えるのはなぜ？

「新しい抗がん剤で生存率が伸びました」。ニュースでこんな話を耳にしたことがあるかもしれません。もちろん、こうした結果の多くは、厳密な臨床試験によって確かめられたものです。一方で、医療に関する数字を見るときには、結果だけを受け取るのではなく、「その差は本当に治療によって生まれたのだろうか」と一度立ち止まって考えることも大切です。例えばA病院では最新の薬を使い、B病院では従来の薬を使っていたとします。結果はA病院の患者さんのほうが長生きでした。では、新しい薬が優れていたのでしょうか。実は、これだけでは分かりません。A病院には若い患者さんが多かったかもしれませんし、早期がんの患者さんが多かったかもしれません。あるいは、経験豊富な外科医が多かったのかもしれません。つまり、「薬が効いた」のか、「患者さんがもともと元気だった」のかは、単純に治療成績を比べるだけでは区別できないのです。

信頼できる答えを導く「ランダム化比較試験」

そこで医学では「ランダム化比較試験」が行われます。平易な言葉で言えば、患者さんをくじ引きで2つのグループに分ける方法です。年齢や病気の重さがほぼ均等になるため、「薬以外の違い」を最小限にでき、現在でも最も信頼性の高い研究方法とされています。しかし、この方法にも限界があります。統計学的に意義のある差を見逃すことなく検出するためには、何百人から何千人もの患者さんを集めて2つの治療を比較する必要があり、莫大な時間と費用がかかるため、すべての疑問について試験を行うことは現実的ではありません。



ビッグデータから「もしも」を再現する

そこで重要になってくるのが因果推論（Causal Inference）という考え方です。電子カルテや全国規模のデータベースに蓄積された何万人もの患者さんの実診療データから、「もし同じ患者さんが別の治療を受けていたらどうなっていただろう」という状況を、統計学を使ってできるだけ公平に再現しようとする考え方です。もちろん、本当のランダム化比較試験を完全に置き換えられるわけではありません。しかし近年では、適切に設計された因果推論研究が、診療ガイドラインや新しい治療法の評価にも活用されるようになっています。



データが導く「あなたに最適な治療」

私は臨床医の経験を持つ統計学の専門家であり、現在ポスドクフェローとして勤務しているMD Anderson Cancer Centerでも、日々蓄積される膨大な臨床データを解析し、「どの患者さんに、どの治療が本当に役立つのか」を明らかにする研究が進められています。医療は「経験」だけで進歩する時代から、「データに基づいて確かめる」時代へと変わりつつあります。その中心にあるのは、AIだけではありません。「因果関係を正しく見抜く」という、地道で奥深い統計学の考え方なのです。また、こうした研究が積み重なることで、「この治療は多くの患者さんに有効だった」という知見だけでなく、「あなたにはどの治療が最も適しているのか」を、より正確に判断できる時代が少しずつ近づいています。年齢や病気の進行度だけでなく、遺伝子情報や画像データ、さらにはこれまでに似た患者さんの治療経過など、さまざまな情報を組み合わせることで、一人ひとりに合わせた治療を選択できる可能性が広がっています。そのためには、単に多くのデータを集めるだけではなく、そのデータから「本当の因果関係」を正しく読み解くことが欠かせません。医療は今、一人ひとりに最適な治療を届ける「個別化医療」へと進化しようとしているのです。

次回は、Baylor College of MedicineのSection of Hematology and Oncologyにご所属の千丈創先生です。千丈先生は血液内科を専門とされ、造血幹細胞移植の最前線で診療・研究に携わっておられます。Baylor College of Medicineという世界有数の専門施設でご活躍されている先生のお話を私自身も大変楽しみにしております！

第265回

ヒューストン日記

鈴木雪江さん



麹（こうじ）に魅せられて

皆さんは「麹」をご存じでしょうか？

「塩麹」や「醤油麹」と聞くと、なじみのある方もいらっしゃるかもしれません。

麹とは、味噌や日本酒など、日本の伝統的な発酵食品を作るときに欠かせない原材料です。

塩麹がブームになり、情報番組などでよく取り上げられていたのは、もう14年ほど前のことでしょうか。私も流行に乗って試してみたのが、麹調味料との出会いでした。

鶏肉や魚を塩麹に漬け込んで焼いてみると、それほど手を加えていないのに、旨みが増してしっとりとした仕上がりに。そのおいしさに感動して以来、私は麹調味料の大ファンです。

調べてみると、麹には酵素の働きによって食材の旨みや甘みを引き出し、肉や魚を柔らかくする効果があるそうです。また、麹を使った発酵食品には、腸内環境を整える働きも期待されているとか。手軽でおいしく、身体にもよさそうだなんて、魅力にあふれていると思いませんか？

インターネットで検索すると、いろいろな麹調味料の作り方が見つかります。「玉ねぎ塩麹」「ショウガ麹」「中華麹」などなど。私もそうした情報を参考に、いくつかの麹調味料を手作りしています。最近では、オリジナルの組み合わせを試してみるのも楽しみの一つになっています。

麹は、日本に一時帰国した際に買ってくるか、こちらの日系スーパーで購入しています。麹さえ手に入れば、ヒューストンでも手軽に麹調味料を楽しむことができますよ。



最後に、初心者にもおすすめの「醤油麹」の作り方をご紹介します。作り方はとても簡単です。

まず、煮沸消毒した保存容器に麹を入れ、麹が浸るくらいの醤油を注ぎます。蓋は密閉せず、軽くのせておきましょう。直射日光の当たらない場所に置き、清潔なスプーンなどで毎日、底からしっかりとかき混ぜてください。

最初のうちは麹が醤油を吸収するので、麹が液面から出ないよう、必要に応じて醤油を足してください。麹の状態や室温にもよりますが、2〜3週間ほどでとろりとしたお粥のような状態になり、麹の粒が柔らかくなってきたら完成の目安になります。

出来上がった醤油麹は、ぜひ醤油の代わりに冷やっこにかけたり、素焼きにした野菜に添えたりしてみてください。発酵をじっくり待った甲斐があったと思える、そんな美味しさです。

なお、完成した醤油麹は冷蔵庫で保存し、1か月程度を目安に使い切ると安心です。

麹の働きによって引き出された奥深い旨みを、ぜひ多くの方に味わっていただきたいです。

アメリカでの“支援につながる”ということ

――家族やパートナーとの悩みを一人で抱えないために

「こんなことで相談してもいいのだろうか」。海外で家族やパートナーとの問題に悩んだとき、どこに相談すればよいかわからず、一人で抱えてしまうことがあります。今回は、相談者と必要な支援をつなぐアドボケイト（Advocate）と呼ばれる相談員の役割と、相談することで得られる支えについてご紹介します。

AADA（Asians Against Domestic Abuse／エイダ）は、DVに悩むアジア系コミュニティの方々を支援する非営利団体です。2001年に設立され、2021年からは在ヒューストン日本国総領事館と連携し、テキサス州とオクラホマ州に住む日本人への支援も行っています。

アドボケイト（Advocate）とは

AADAをはじめ、アメリカのDV被害者支援団体では、アドボケイトと呼ばれる相談員が相談者の話を聞き、困りごとや必要な支援を一緒に整理します。弁護士やカウンセラーとは異なる立場で、利用できる支援や選択肢について情報を提供し、必要に応じて専門機関につなぎます。

どうしたいか決まっていなくても、相談できます

相談することは、離婚や別居、警察への通報などを決めることではありません。どの支援を利用するか、これからどうするかは、ご本人が決めます。

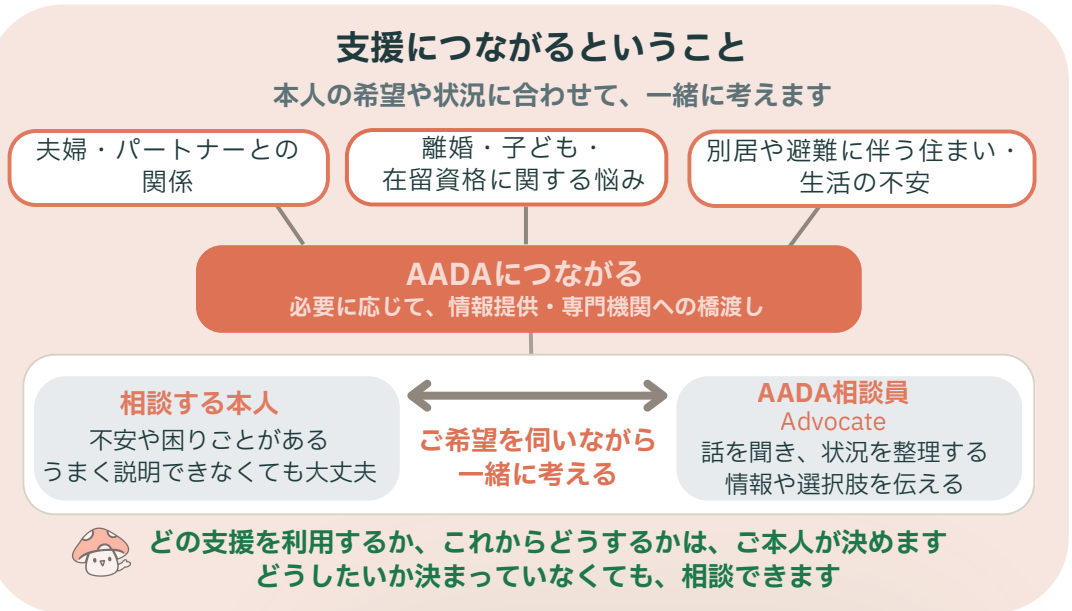
“DVなのかわからない”というときも、相談できます。

話を聞いてもらえただけで、安心しました

相談された方から、よくいただく言葉です。相談したからといって、すぐに問題が解決するとは限りませんが、誰かに話すことで不安が和らぎ、自分の状況や気持ちを整理できることがあります。

全3回にわたり、DVやハーグ条約、アメリカでの支援についてご紹介してきました。一人で抱え込まず、必要な情報や支援につながることが大切です。

AADAでは日本語で相談を受け付けています。小さな悩みでも、まずはお話しください。



@AADAINC

AADA

執筆： 藤原あや
AADA
アウトリーチ・コーディネーター

ご相談お問い合わせは
AADA　宮澤明音
akane@aadainc.org

連載を終えて...
全3回の連載は今回で終了となりますが、今後もAADAの活動や、皆さまに役立つ情報を随時ご紹介していきます。

家庭犬しつけインストラクター　川原 志津香

ワン！モアヒューストン

＜最終回＞

VOL.26 ところ変われば しつけも変わる

新型コロナウイルスのパンデミックが終息し始めた2022年にヒューストンに引っ越してきて、まもなく5年経ちます。2010年から2015年の間にヒューストンに滞在していた前回と同様に、今回も犬を通じた多くの出会いがありました。

動物の保護施設でのボランティアとして散歩した犬の数は数百頭。そこで出会ったスタッフやボランティアの方々が数十人。日本から犬を連れて来た、または日本に犬を連れて帰る日本人の方で、渡航手続きについてお問い合わせをいただいた方々、前回のヒューストン滞在時から親しくしていたローカルのドッグトレーナーたちとの再会と新たな交流。犬好き、人好きが高じて犬のしつけの仕事に就くことがなければ、こうした人のつながりはできなかったかと思うと、犬を通じたご縁に感謝するばかりです。



◀緑あふれる毎日の散歩コース

▼東京の住宅街の散歩コース



こうして犬を通じて出会った方々と話をしているときに、東京とヒューストンでの犬の生活やしつけの違いが話題に上ることがあります。犬の生活は飼い主のライフスタイルや住環境によって大きく変わるので、東京の犬に求められるしつけと、ヒューストンの犬に求められるしつけには大きな違いがあります。

一番わかりやすい例は、犬のトイレのしつけです。ヒューストンは緑豊かで犬と散歩できる場所が至る所にあります。緑地に囲まれた生活のため、犬たちの排泄は基本的には外でするものというのが常識です。「野生動物も含め、動物は家を汚さず、外で排泄するものだ。犬も動物だから当然外だ」と考えるからです。したがって、トイレのしつけというと、いかに室内で排泄させないように教えるかというトレーニングになります。日本ではお馴染みの、犬に室内トイレをしつけるために使用するトイレシーツは、ヒューストンでも販売されていますが、主に排泄が頻繁で短時間でも我慢できない子犬のための商品です。トイレシーツの外袋には可愛らしい子犬の写真やどのようにして外で排泄をさせるようにしつけるかという説明書きがあるほどです。

ところ変わって、東京では、都心に近い場所ほど住宅は密集し、道路脇には芝生どころか土もないような環境も少なくありません。排泄をしても染み込んでくれる地面がない地域で犬たちに求められるのは、できるだけ室内で排泄を済ませるというしつけです。東京都保健医療局の「犬の飼い主の皆様へ」のページに紹介されているとおり、「トイレは散歩の前に家で済ませましょう。もし外でしてしまった時のために、犬を散歩に連れて行くときは、ビニール袋などを持って行き、ふんを必ず持ち帰って始末してください。」ということなのです。東京の犬のトイレ事情についての詳細は、東京都動物愛護相談センターのホームページ内の「ワンニャンとうきょう」のために執筆したコラム、「犬のトイレトレーニング最新事情」（その1およびその2）を読んでいただければと思います。

暮らしている場所によってルールやマナーがあり、それを守ることは大切です。ところが、大変なのは、異なる犬文化の土地に引っ越して生活が大きく変わる場合です。ヒューストンでは犬の排泄は自宅の庭や、住宅街の道路脇の芝生で済ませていたのに、「明日から東京のマンション暮らしになるから、室内に設けたトイレスペースを利用してね」と急に言われたところで、犬に理解ができるはずもなく、散歩に出かけるまで必死にトイレを我慢して、我慢の限界がくると室内のあちこちで排泄してしまうことになります。



◀大型犬でも
室内トイレができると便利

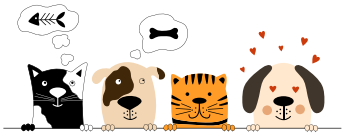
わかりやすいトイレの例でお話をしましたが、どんな内容であっても犬のしつけは1日にしてならず。犬と暮らしている方々、または今後犬を迎える予定の方々は、今後どのような場所で暮らすことになるのかを見据えて、必要なしつけを行うのが理想です。

わが家の愛犬アクアは、ヒューストンの動物保護団体から譲り受けた犬です。正真正銘テキサス生まれテキサス育ち。でも、いずれは東京で暮らすことになるので、23kgの大きな犬に成長しましたが、室内トイレができるようにしつけをしてきました。また人や車の多い地域での散歩を想定してヒューストンのCity CenterやKatyのLa Centerraのような商業地域を歩く練習をしたり、将来の飛行機移動や東京での地震や災害に備えてクレートと呼ばれる犬用のハウスで落ち着いている練習をするなど、少しだけ東京を意識したしつけを行っています。帰国すると決まってからでは慌ただしくなるので、時間に余裕がある間から少しずつ取り組むのがおすすめです。

日本で犬と暮らしたことがない方は、日本で必要なしつけについてイメージが湧かないかもしれません。先にもご紹介した東京都動物愛護相談センターのホームページ内の「家庭犬しつけインストラクターからのアドバイス」というコーナーでこれまでに執筆した記事を掲載していますので、その中からヒントを得ていただければ幸いです。



◀「都会慣れ」するために時々賑やかな場所へ出かけています



全26回の連載をさせていただいた「ワン！モア ヒューストン」ですが、今年12月に帰国する予定となり、今回が最終回となりました。どこまでも広くて青い空の下のびのびと暮らしていたテキサスっ子アクアと一緒に、今度は大都会東京の暮らしを楽しみたいと思います。読者の皆様、ありがとうございました！

＝Houston＝ お助けマップ

最新ブログ

芸術の秋!
アメリカの映画館を楽しもう♪



お助けマップ　メンバー募集中

ヒューストンの暮らしに役立つ情報を、一緒に楽しく発信しませんか？

月1回のミーティングを中心に、お買い物調査やレストランリサーチ、アメリカの文化体験など、さまざまな活動を楽しんでいます！

和気あいあいとしたメンバーと一緒に、ヒューストン生活をもっと楽しみましょう！

ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。
info@jbahouston.org　または　図書カウンターまで

お助けマップメンバーが交代でブログを更新中！

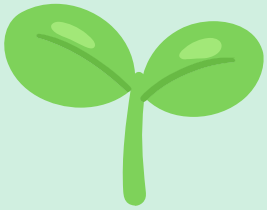
ヒューストン日本語補習校からのお知らせ

補習校の先生を募集しています！

教員免許・教育経験は問いません

こんな方、ぜひ一度ご連絡ください





子どもたちの
教育に関わって
みたい





日本語や
日本文化を
次の世代に伝えたい



これまでの
教員経験を
活かしたい



興味を持たれた方は、まずはお気軽にお問い合わせください。

募集の詳細はコチラをご覧ください。

EVENT INFORMATION

Houston Walker

イベント情報

■Nov. 20 - 2027年9月

Dead Sea Scrolls: The Exhibition@ Houston Museum of Natural Science

イスラエル古物庁（IAA）の協力のもと、2000年前の最古の聖書断片（死海文書）や、洞窟や当時の人々の暮らしや信仰を伝える出土品が出展され、ユダヤ教や初期キリスト教、聖書成立の歴史的背景を学べる構成になっています。

■Nov. 26

77th Annual H-E-B Thanksgiving Day Parade@ Brown Theater

感謝祭のパレードはNYだけではありません。ターキーやキャラクターの山車、浮かび上がるフロート、マーチングバンドにチアリーダーなど、各企業や団体を代表する華やかな感謝祭パレードがヒューストンのダウンタウンを練り歩きます。

■Dec. 8-24

Disney's The Little Mermaid@ Hobby Center

名作アニメ映画およびブロードウェイ版の楽曲が生演奏で披露され、「アンダー・ザ・シー」などの人気ナンバーがステージを彩ります。家族連れでホリデーシーズンらしい華やかな演出が楽しめそうです。

■Nov. 15 - Dec. 27

A CHRISTMAS CAROL@ Alley Theatre

チャールズ・ディケンス作「クリスマスキャロル」が今年も上演されます。意地悪でどケチなスクルージおじさんが、幽霊との出会いによって次第に変わっていく心温まる名作です。上演は訛りのきつい英語だそうですが、一度は観劇してみたいですね。

※内容は記事執筆時点の情報に基づいています。変更になる場合もありますので、お出かけ前に各自で最新の情報を主催者サイト等でご確認ください。(ファーガソンステガー 仁美)

■Nov. 21- Dec.20

Old Time Christmas Tree Firm @ Spring

クリスマスツリーファームで自分だけの一本を見つけてみませんか？こちらのファームは実際に生えている木を物色し、自分でのこぎりで切って購入、車にくくりつけて持ち帰るというなんともアメリカンなスタイル。感謝祭ウィークから主に週末開催、入場無料です。ヘイライドやバウンスハウスなどはチケット制となっています。

■Nov. 28- Dec. 28

THE NUTCRACKER@ Brown Theater

クリスマスのトラディションといえば、バレエ「くるみ割り人形」。プリンシパルをはじめ日本人バレエダンサーも在籍するヒューストンバレエ団による、チャイコフスキーの優雅な楽曲と舞踊をお楽しみください。

■Dec.

River Oaks Christmas Lights 2026@River Oaks Boulevard

リバーオークスの豪邸や、樹齢200年を超える巨大なオークの木々が数万個のミニライトで最上部の枝まで美しく包み込まれます。テキサスNo.1にも選ばれる人気のイルミネーションスポットです。River Oaks Blvdを目指して、 Inwood Dr、Del Monte Dr のサンタハウスも覗いてみてください。

■Dec. 11-13

The Story: Toy Maker@ First Baptist Church（Katy）

こちらの教会ではブロードウェーアーティストも加わりキリストの降誕劇を再現する本格的なステージを楽しませてくれます。讃美歌やクリスマスの意味に興味がある方におすすめです。教会の会員でなくても行けますが、チケット購入が必要です。

編集後記

11月に入り、ヒューストンでも朝晩は少しずつ秋の深まりを感じる季節となりました。長かった夏もようやく終わり、過ごしやすい日が増えてきました。そんな中、ガルフストリームの編集に深く携わってくださった大切な仲間との、突然のお別れがありました。

いつも新しいアイデアを提案し、より魅力的で読みやすい誌面にするために力を尽くしてくださいました。また、編集会議にはお菓子などを持参し、忙しい中で編集に携わるボランティアの皆さんを気遣ってくださったことも、心に残っています。

誌面づくりへの熱意と、共に活動する仲間への温かな心遣い。そのどちらも、ガルフストリームの編集活動を支えてくださった大切なものでした。

さらに、商工会事務局のメンバーとしても、ご自身の人脈やアイデアを活かして様々なイベントを企画してくださいました。多くの会員の皆様にとっても、楽しいひとときを過ごし、交流を深める貴重な機会となったことと思います。

これまで注いでくださった多くの時間と情熱、そして数々の温かい思い出に、心から感謝申し上げます。ご一緒できたことを忘れずに、これからもよりよい誌面づくりに取り組んでいきたいと思います。

心よりご冥福をお祈りいたします。

＜ガルフストリーム編集委員・ボランティアー同＞

ガルフストリームは毎月１５日発行です。
編集委員および投稿募集中！
問い合わせ先： sansuikai@jbahouston.org
ガルフストリームは、ホームページでも閲覧可能です。
https://www.jbahoustongulfstream.com/

発 行 ： ヒューストン日本商工会
発行責任者 ： 浅野 健一
編集委員長 ： 伊藤 義治
構成・編集 ： ガルフストリーム編集委員一同

免責事項
掲載情報の正確性・安全性は保証しません。内容は更新等により変更・陳腐化する場合があります。掲載内容およびリンク先の利用に伴う損害について、当会は一切責任を負いません。リンク先は各運営者の責任であり、利用は自己責任でお願いします。
著作権等
本ニュースレターおよび記事の知的財産権は、ヒューストン日本商工会（JBAH）または各執筆者に帰属します。権利者の書面許諾なく複製・配布・送信等を禁じます。許諾は JBAH info@jbahouston.org までご連絡ください。© 2025 Japan Business Association of Houston. All rights reserved.